

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	管理者・職員は理念の意味について再確認を可とする為の話し合いと理念についての勉強会開催等をする。	入居者様の心の働き(態度)を知り、それによってその入居者様の生活を援助していく。	理念が実際のケア現場にどのような形で現れているかを朝の申し送り、お風呂などで再確認する。	3ヶ月
2	6	身体拘束について共通理解を図る為の話し合いや勉強会を行う。	身体拘束に該当する具体的な行為を理解し、入居者様本人の周辺への大きな弊害を生じさせない不適切な対応を見逃さず、必ず立止りケアありを点検し改善し特約の虐待を防ぐ。	法人内の勉強会やお風呂・朝の申し送り、話し合い、「職員の質」を確保しさらに「ケアの質」を確保し、虐待の防止を図っていく。下への組織的取り組みをしていくこと。	3ヶ月
3	10	事業者セトから運営に関する家族からの意見が出しやすい仕組みを作る。	家族の意見をとり課題を抽出し、その負担を緩和していく。	行事や運営推進会議等に参加し頂き、家族の接点を増やしていく。	6ヶ月
4	11	事業所の職員全員へ定期的に個人面談を行うなど、個別の意見の聴取が出来る機会を作りたい。	「職場環境」改善に努め、職員が気持ちよく働いて、よりよい成果を生み出せるようにする。	管理者は職員と定期的に個人面談を行うこと。	6ヶ月
5	26	家族からの意見やエピソードの内容が介護計画に反映されるよう、多面的な記載内容の本質を捉える。	さまざまな意見においてケア視点から捉え、ケアの可能性を高め、認知症の人の意向を反映し、QOLを高めるケアに発展していくこと。	家族からの意見やエピソードの内容を詳しく記録し、経過も含めて全体的なケア評価できるように、ケア仕訳問題があるか常に意識して対応策を考えていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。